

3月11日、巨大地震の後の大津波は、30分も経たずに東日本太平洋側の幾つもの都市と、そこに住む人々をさらし、消してしまいました。東港金属「羅針盤」も、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された地域の皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

いまだ先が見えない原発事故の被害も収束の方向が見えず、日本中が心を痛め重い気持ちになってしまっていますが、今は、いつ来てもおかしくない首都災害への備えも忘れずに対策した上で、罹災を免れた地方が出来る力を発揮して経済を活性化させることで、被災地の復旧・復興につなげてまいりましょう。そのためには、廃棄物処理業界にも大きな役割が課せられていると思います。

残された資源を少しでも多く再資源化して利用できるよう東港金属も出来る限りのお手伝いをしてまいります。



★羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの4月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ** → 考察) 震災の影響で3月の関東地区の相場は月初から5,000円/トン下落しました。原発問題もあり国内電炉メーカーや湾岸商社・輸出業者が荷止め・荷受制限を受けており、計画停電も考慮すると減産となり、4月も値が下がると考えられます
- 銅** → 考察) 2月から好調に上値をつけていきましたが、震災により月初比でLMEが約300ドル/トン下落しました。4月は物流、燃料もかなり回復しましたが、原発や海外情勢も不安があり相場は現状維持が精一杯と予測します。
- アルミ** → 考察) 銅ほどではありませんが3月は少し下落しました。4月は自動車メーカーの本格稼働までに時間がかかるかと予想されますので、価格はまだ下がると思われます。
- プラスチック** 考察) 2月からの原油高で3月はじめは値上げしましたが、震災の放射線問題で中国輸出が困難となり、国内も値下げ傾向です。4月は間違いなく下がると予想しています。

3月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	×
銅	×	プラスチック	×

★羅針盤

特集

被災地をみて (震災被災地のお客様を訪問しました)

代表取締役 福田 隆

震災から約3週間経った3月31日～4月初旬東北地方のお客様をお見舞いに岩手県、宮城県、福島県、茨城県に行きました。お客様の状況を大変心配しておりましたので、皆さん方とお会いし、元気な姿をこの目で見られた事が何よりでした。

特に沿岸部における被災地の惨状については報道等でなされておりますので、ここで記す事は致しませんが、天災という明日は我が身の出来事について、現地を感じた事を述べたいと思います。

お客様のうちの1社(宮城県石巻市)では、震災後安否を確認しながらも、大型トラック2台を道路が通じていた新潟に向かわせ、食糧と燃料を調達に行ったという事でした。これによって会社にすれば暖かるとして食事が出来るという状態を作り出し、従業員が安心できる体制を作ったとのことでした。そうやって生活の基盤を作った後に、復旧のための車の片付けや鉄くずの片付け等の仕事をされていました。衣食住そしてやる事(仕事)があるということがどれほど人間を安定させ勇気づけるか、身にしみて感じました。その会社の方々は被災された中でも大きな明るさがあり、当社が元気づけられた程です。

私たちは、日々普通に出来ている事、普通に感じている事に感謝をしなければならぬと思います。屋根のある家で寝られること、スイッチ一つで電灯が灯り、水やお湯が出てくる。時間になればバスや電車が来る。会社に行けば仕事がある。当たり前の事がどれほど幸せなことなのかに思いを馳せて、日本全体での復興を目指しましょう。

地震からの危険察知という事で考えられるのは、地震そのものよりも地震によって起きる災害(津波、火災、地滑り、落下物等)で被害を受ける事が大半であろうと思われます。建物強化等の対策、その後に来るであろう災害に備えた準備、訓練がとても大切になります。今まで真剣に考えてこなかった事に、正面から向き合って取り組む事が求められています。

★羅針盤

産業廃棄物の種類について

産業廃棄物を処理委託するときに排出者が交付(発行)するマニフェストでは、処理委託する産業廃棄物の種類をチェックすることとなっていますが、その分類は廃棄物処理法で規定されております。 分類の判断に迷うこともあると思いますので、具体例で覚えましょう。主なものをあげました。

- ① 廃プラスチック類 = 合成樹脂くず、合成繊維くず、合成ゴムくず、廃タイヤなど固形状及び液状の全ての合成高分子化合物
 - ② 金属くず = 鉄鋼又は非鉄金属の破片、研磨くず、切削くず等
 - ③ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず = ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)、レンガくず、廃石膏ボード(ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずと紙くずの混合物)、セメントくず、モルタルくず、スレートくず、陶磁器くず等
 - ④ がれき類 = 工作物の新築、改築または除去により生じたコンクリート破片、アスファルト破片その他これらに類する不要物
- ※③と④を混同しないようご注意ください。



京浜島日記

(第6回)

3月11日は誰にとっても忘れられない日になりました。この国難に際し、我々リサイクル業界がすべきことを現実的な側面から申し上げたいと思います。

スクラップのユーザーである原料メーカーは被災し稼働が止まっているところ、そして計画停電により減産を余儀なくされているところがあり、国内のリサイクル原料の使用量は直近で減っています。また、輸向けとしても放射能汚染を恐れた海外メーカーの買い控えが起きており、国内のスクラップ需給が緩んでいます。産業廃棄物の焼却炉事業者も被災、重油確保難、計画停電による稼働停止などがあります。つまり、スクラップ、産廃共に出先がない状況に陥っています。

しかし、これらは夏以降には解消してくるでしょう。我々中間処理業者が頑張って出荷先を確保し、被災地並びに通常のお客様からのスクラップ、産廃をきちんと継続的に受け入れる事が求められているでしょう。当社でもその体制を確立すべく準備を進めています。

また、現時点ではスクラップにおける放射能汚染はそれほど心配することはないのではないかと認識しています。当社でも2台の放射能探知機により入出荷共に厳しく管理しておりますが、若干の線量増という状況です。これらは半減期を迎えるまでの保管、水洗いにより放射線量は大幅に下がります。福島の影響によるスクラップの放射線量については、東京においてはあまり心配はしていません。安心して使って頂けるよう、我々は管理を続けていく事だと思えます。

これから復旧、復興のためのがれき類、スクラップが大量に発生します。宮城県だけでもがれき類は1800万トンと言われ、宮城県での23年分となっているようです。これらは我々業界全体で取り組んでいかないと、復興のために3年以内でがれき類全量処理をするという指針をかなえる事もままなりません。我々リサイクル業界にも、モラル、頑張りが問われています。

(代表取締役 福田 隆)